

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101687		
法人名	有限会社 マインド		
事業所名	グループホーム 愛の郷		
所在地	山口県下関市一の宮町3丁目380-1		
自己評価作成日	平成27年6月 日	評価結果市町受理日	平成27年11月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、利用者の方々にはラドン温泉を満喫して頂いています。季節の変化を五感で感じる事が出来る、静かな環境でゆっくりと各ご利用者に合ったペースで日常生活を送って頂いております。地域の方々との交流も出来る限り増やし、地域の一員として毎日楽しく生活を送って頂けるように心掛け、職員も利用者の方々もひとり1人が笑顔で過ごして頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がその人らしく暮らしていけるよう面会時や行事参加時、年1回の家族会、年3回のアンケート、事業所より送付時、電話などで家族からの意見や要望を聞く機会を設けられ、繰り返し話し合いをされて家族との協力関係を築かれています。年賀状や暑中見舞い状などでの利用者と家族の交流支援や家族の協力を得てのコンサート、温泉、墓参り、法事への出席など、家族との絆を大切にしながら馴染みの人や場所との関係継続の支援をされています。内部研修は年間計画を作成して実施されている他、外部研修は希望や段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供しておられるなど、前年度の評価を活かして研修の充実に取り組まれ、資格取得の支援をされて職員の質の向上に努めておられます。本や新聞を読む、日記をつける、日本舞踊を披露する、歌を歌う、編み物、縫い物、雑巾縫いなど職員は利用者の「できる事、目をキラキラさせる事」を見つけられ、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホールに掲示する事で、職員と一緒に共有し、実践に繋がるように努めている。また、新入職員には入社日に説明を行い、意味を理解してもらい介護にあたるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。「理念の歌」をつくり利用者と共に毎日合唱している他、日常業務の中でも話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、外出時等に挨拶を交わしたり、地域行事への参加や園児や小学生との交流の機会を利用者が持てるようにしている。	自治会に加入し、地域の清掃活動に職員が参加している。地域の夏祭りには利用者と一緒に参加して交流している。事業所主催の夏祭りには地域の人や子どもたち、民生委員の参加がある。ボランティア(マジック、楽器演奏など)の来訪がある他、演奏会や運動会見学などで幼稚園児と交流をしている。散歩時に出会う人と挨拶を交わしたり、会話を楽しんだり、近所の人から野菜や花の苗の差し入れがある他、事業所周辺の草刈りの協力を得ているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、施設で起きた事例をもとに、認知症の理解・協力を努めている。また、施設見学も随時行っており、地域で困っている方の相談を受け、アドバイスが出来るようにしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ガイド集を参照し、一部の役員・調理職員以外の全職員に自己評価を実施している。また、評価をもとに課題を再度確認し、より良いケアに繋がるように努めている。	管理者が職員に評価の意義について説明し、ガイド集を参考にして自己評価をするための書類に記入してもらい、管理者がまとめたものを全職員で検討している。外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、職員の研修の充実や夜間想定避難訓練、緊急時の初期対応と応急手当の訓練の実施、運営推進会議の会議録の検討など、具体的な改善に向けて取り組むように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での現状報告に加え、外部で起きた事故や火災等があれば、会議の際に話し合い意見交換が出来るように努めている。また、各ユニットスタッフが現状報告を行い参加する事で、会議の内容を他の職員と共有し、サービスの向上に生かしていけるように努めている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の現状報告、行事報告、避難訓練の実施報告、外部評価結果等について報告し、話し合いをしている。行方不明になった高齢者に対しての地域連携についての意見があり、話し合いをしたが取り組むまでには至っていない。	・会議の活かし方の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援を必要とする利用について、市の生活支援課の担当者と連絡を密にしている。 運営推進会議の際は、包括支援センターからの情報提供や意見交換を行っている。また、事故発生時は、速やかに報告を行い指示を仰いでいる。	市の担当者とは運営推進会議出席時(年1回)や介護保険の更新や事故報告等で出向いて話し合っている他、電話やFAXで相談、情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に相談、情報交換をしている他、利用者のことについて出向いて相談し助言を得ているなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関に直面している道路は、交通量が多く安全確保の為、玄関を施錠しているが常時ではない。 散歩や外出の機会を作るなど、最小限の施錠ですむようにしている。また、内部研修にて、身体拘束について理解が出来るよう努めている。	内部研修で学び、職員は理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、利用者が外出したいときには一緒に出かけている他、職員体制に応じて開錠するなどの工夫をしている。スピーチロックについては職員間で注意合っている他、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員全員にアンケートをとり、アンケートとりアンケートの結果をもとに内部研修を行い、対応方法や、防止策等について学ぶ機会を作っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している入居者の方がいる為、学ぶ機会を持てるよう努めているが全職員が理解しているわけではない。 尚、必要性が生じた場合には市の生活支援課と意見交換をするようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をとり説明を行い、家族からの質問にも応じている。 安心して利用して頂く為、疑問等あればその都度対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口についての説明を行っている。その他、玄関先に意見箱の設置やイベント後はアンケートを実施し家族からの意見や要望を確認している。 意見や要望を出しやすい環境を作り、努め、職員間でもそれらの情報を共有し、運営に反映できるよう心掛けている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や家族会(年1回)行事参加時、面会時、事業所だより送付時、年3回のアンケート、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに関する要望は反映している。看取りについての意見があり、受け入れ態勢は今後話し合っ決めていくこととしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、管理職に報告。月例会議の際に、それらの意見や提案を検討し業務に活かしていけるよう努めている。	管理者は、月1回のミーティング時や申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で聞いている。職員から利用者の重度化に合わせての勤務体制の変更について意見があり、話し合いをして反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成の際は、事前に希望休を確認。ご利用者や職員の状況に応じ、就業時間、補助等の調節を他職員の協力のもと実施している。外部研修は勤務の一環として行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やスキルに応じて、出来る限り研修の機会を作るようにしている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料は回覧して共有している。内部研修は年間計画を作成し、認知症、感染症、骨折、接遇、熱中症等について実施している。山口県宅老所・グループホーム協会のブロック研修会や交流会へ参加している。資格取得の支援や働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しブロックの研修会等で交流を図っていけるように努めている。また、他のグループホームを訪問し情報交換等の機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前の面談時に本人や家族の方に話を伺い、本人が置かれている状況が理解できるように努めています。想いを受け止め、安心して頂くことで信頼関係が築いていけるように努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会話する時間を作り、話を傾聴する事で家族の思いを知り寄り添う事が出来るような人間関係作りに努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に得た情報や本人・家族との会話からニーズを見極め、優先順位を考えながら支援するように努めています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の些細な会話の中から本人の思いを見つける様に努めています。 各自の能力に応じた役割を持って頂く事で生活を共にし、居場所を作る事が出来る様に努めています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をお願いし、家族・利用者との交流が図れる機会作りに努めています。 本人希望時は、家族への協力をお願いし、電話で会話する事で家族との絆を大切にしながら安心して日常生活を送っていただけるよう支援しています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の面会時は写真をとり、本人に渡したり居室に飾ったりしています。 写真をもとに昔話等をし、馴染みの方との関係が途切れないように支援しています。家族の協力を得て、外出の機会も作れています。	親戚の人や同級生、友人、知人の来訪がある他、暑中見舞いや年賀状、手紙、電話での支援をしている。自宅周辺や馴染みの場所へのドライブ、家族の協力を得ての外食や温泉、コンサート、墓参り、法事への出席など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、孤立することがないよう、職員も会話の中に入り利用者同士、交流が図れるように努めています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人の所へ足を運び家族とも連絡をとりあい、相談に応じれるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや行動を記録に残し、朝礼時や月例会議の際にカンファレンスを行い具体策を決定し実践しています。	入居時に本人や家族の意向や基本情報(生活歴、趣味など)をフェスシートに記録して把握し、共有している。日常の関わりの中で利用者の表情や行動などの気づきを経過記録に記録し、職員間で話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や他施設からの情報提供をお願いします。入居前アセスメント、フェイスシートを作成し回覧することで、入居前の様子が把握出来る様に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムパターンシート、健康チェック表、経過記録をもとに、利用者の1日の様子を把握するようにしています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員を中心にモニタリング、カンファレンスを行い、職員、本人、家族の意見を介護計画に反映し現状に即したプランを作成しています。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師、職員等の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている。利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を経過記録に残し情報を共有している。特変時は特変記録とし別紙に残す事で状態変化の把握をし介護計画に活かせるようにしています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、医師の特徴のもと施設の看護師が必要とする処置や内服調整を行っている。ビューティーヘルパー、訪問により整髪をしたり家族の支援が得られない方は買い物や受診の支援を行っています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや幼小学校からのボランティアの受け入れをしている。 花畑や野菜畑等を活用しながら、利用者の方が毎日楽しく暮らしていける様に努めています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診による診察がありますが、本人や家族の方の希望を尊重し主治医を決めています。馴染みの病院への受診を希望された場合は通院の介助を行い、医師との連携を図っています。受診記録に残すことで職員、家族と情報を共有できるように努めています。	以前からのかかりつけ医には他科受診を含めて家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時には、口頭や看護師の記録で医師に情報提供している。協力医療機関にかかりつけ医としている場合は、月2回の訪問診療を受けている。受診結果は家族に面接時や電話で伝えている。家族からの情報は、受診記録に記録して共有している。緊急時には、協力医療機関に連絡して支持を受け、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員の一人として利用者の方と関わるようにし異常の早期発見に努めています。利用者の方の変化に気付いた際には、特変記録に残し必要時は受診が出来る様に支援しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族への経過報告や病院への情報提供を行っています。 入院中は病棟に見舞いに行き、関係者との情報交換を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取り看護について説明、同意を得ている。 重度化した場合は、状態に応じ家族や医療関係者と相談しながら方針を検討しています。	契約時に指針に基づいて事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には家族や医師、看護師等関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて、方針を共有して支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットを活用し、事故の原因を明確にするとともに再発防止策の検討を行っています。 月例会議の際に過去にあった事故事例を元に話し合う時間を作っています。	事例が生じた場合にはその日の職員で再発防止策を話し合い、記録して申し送り時に共有している。月例会議で再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えては、消防署の協力を得てのAEDの使用訓練や救急救命法を実施している。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難、消火、通報の訓練を行っています。夜間現実の訓練も行っていますが、現状では避難の流れを確認するのみで、全職員が身につけるには、回数を重ね取り組む必要がある。	危機管理業者の協力を得て昼夜想定避難訓練を実施している他、事業所独自の夜間想定避難訓練を利用者と一緒に行っている。運営推進会議の中で災害時の協力について話し合いをしている。近隣住民3名が連絡網に加入して、協力の確約をしている。避難場所として地区の公民館からの承諾を得られるなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者ひとり1人が人生の先輩である事を考え毎日関わるようにしています。対応の仕方について気になる事があれば職員同士で注意しあうようにしています。	内部研修で学び、職員は理解して、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応に気づいた時には管理者が指導している他、職員同士でも話し合っている。個人情報の管理や取り扱いに注意し、守秘義務について徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者により個人差はありますが、ゆっくり話をする時間を作っています。また、記録に残す事で情報を共有しケアにつなげていけるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしています。利用者とは話す時間を作り、その人らしく生活を送る事が出来る様に支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ビューティーヘルパーの訪問を受けています。散髪や髪染めの希望を毎月利用者に確認しお洒落を楽しむことが出来る様に支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や季節の行事を通し、利用者と職員と一緒に食事や片付けを楽しむ時間が持てる様にしています。好きな物が食べれるという喜びと一緒に作る楽しみを味わって頂けるように努めています。	昼食は法人からの配食を利用し、朝食と夕食は事業所で食事づくりをしている。事業所で収穫した野菜や近所からの差し入れの野菜を使って利用者と一緒に調理している。食材の買い物や下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど利用者のできることを職員と一緒にしている。季節の行事食(そうめん流しなど)、誕生日食(本人の好みを聞いて巻きずしやスパゲティなど)、おやつづくり(ホットケーキ、パンケーキなど)、バレンタインのチョコレートづくり、年2回のピクニックでの弁当、テラスでのティータイム、家族の協力を得ての外出など、食事が楽しみになるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムパターンシートを活用し食事量や水分量を記録の上、確認しています。体重測定を定期的に行い、状況に応じて医師に相談をし結果を仰いでいます。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、清潔が保てるようにしている。拒否の強い方はうがいを促し、口腔内を清潔に保つよう対応している。また、家族了解のもと、必要時のみ歯科受診(往診)を依頼しケアの仕方について指示を仰いでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムパターンシートを活用しながら、排泄のリズムを確認するようにしています。トイレでの排泄が困難な方に関しては言動に注意しながら対応を行っています。	生活リズムパターンシートを活用して、排泄パターンを把握して、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1回の水分摂取量を記録し少量ずつでも水分摂取を促すようにしています。乳製品や繊維の多い食事を取り入れるようにし、便秘体操も利用者の状態に応じて行っています。また、医師に相談しながら、内服を使用し排便調節を行っています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前または午後に、利用者の状況に応じて毎日入浴を行っています。入浴拒否のある方に対しては、気持ちの配慮を行い対応の仕方を工夫する事で入浴できるように支援しています。	入浴は9時30分から11時30分までの間と、13時から16時の間可能で、希望すればいつでも入浴できる。入浴したくない人には、タイミングを見計らったり、職員の交代や声かけの工夫をして入浴できるよう支援している。体調によっては足浴や清拭、シャワー浴など個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムパターンシートを活用し、睡眠パターンの把握をしています。不眠の方、倦怠感が強い方に関しては、昼夜問わず休憩して頂きゆっくりとして頂いています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表と薬情を一緒にファイルしセット時の他、いつでも内容を確認できるようにしています。薬の変更時は、ノートに記録し情報を共有する事で状態の変化を観察し医師に報告するようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かし、毎日楽しく生活を送る事が出来るよう、個々の能力に応じた役割を持って頂くようにしています。施設行事の際は、特技を披露する場面作りを行い活躍出来る様にしています。	テレビやDVDの視聴、本や新聞を読む、日記をつける、日本舞踊、歌を歌う、生け花、縫い物、雑巾縫い、編み物、料理の下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、下膳、台拭き、おやつづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、モップ掛け、野菜の植え付け、収穫、季節行事(敬老会、ソーメン流し、クリスマス会など)、誕生日会、ボランティア(マジックショー、楽器演奏)との交流、幼稚園児との交流、紐編み、ぬり絵、折り紙、計算ドリル、トランプ、カルタ、リハビリ体操など、職印は利用者の「できる事、目をキラキラさせる事」を見つけて、場面づくりをして、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて戸外の散歩をしたり、馴染みの場所へのドライブ等を行っています。 家族の方との外出支援もあり、コンサートや買い物、墓参り等も行っています。	周辺の散歩、買い物、自宅集辺や馴染みの場所へのドライブ、季節の花見(桜、コスモス、菖蒲、紅葉狩り)、初詣、ピクニック、家族の協力を得てのコンサート、温泉、外食、外泊、買い物、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるように支援に努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者でわないがお金を所持し外出時に使える様に支援しています。 金銭管理の難しい方に関しては、買い物をする際にお金を手渡し支払いをして頂いています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安感の強い時や本人が電話を希望された際は、電話の使用が出来る様に対応しています。また、年賀状での手紙のやり取り等も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂く為に、花を飾ったり行事の写真を飾ったりしています。 教養の空間では、不快感や混乱を招かないように整理整頓に努めています。 心地よく過ごせるよう空調や彩光調整を行うようにしています。	共用空間は明るく、広々としていて窓からは田園風景が見渡せ、四季の移り変わりを感じることができる。壁面には行事の写真が飾ってある他、理念が掲示してある。大きな笹に利用者一人ひとりの思いの短冊が下げられている七夕飾りもある。テレビの前には大きなソファ、廊下には椅子、畳の間などがあり、利用者が思い思いに過ごせるような居場所となっている。温度、湿度、換気、音などに配慮し、利用者が居心地よく安心して過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を設置し、ゆっくりとくつろげるスペースを作っています。 テーブルの位置や椅子の配置を工夫し、利用者同士の関係性に配慮した環境作りに努めています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険となるもの以外は、利用者の慣れ親しんだ物を持ち込んで頂いています。 家族写真や愛用の物を置く事で安心して過ごせる空間作りに努めています。	テレビ、ベッド、布団、タンス、机、椅子、本箱、時計、衣装掛け、ソファ、仏壇、鏡など、使い慣れた物を持ち込み、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の変化などによる、拒否を最小限にするよう状況に合わせて環境整備に努めています。テーブルの高さ調整が出来ない為、椅子の高さの工夫や車椅子の使用などにより、安全で自立した生活を送る事が出来る様に工夫しています。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 愛の郷

作成日： 平成 27年 11月 18日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応の訓練を継続し全職員が緊急時の対応ができるようにしていく必要がある。	職印全員が緊急時の対応をする際慌てることなく行動することができる。	・初期対応マニュアルを再確認し見直しを行う。 ・内部のみではなく外部の研修を含め定期的な訓練を行っていく。 ・書籍を購入し職員全員がいつでも見られるようにする。	12ヶ月
2	5	会議の際に現状報告を行い意見交換を行っているが議事録に記入されていないことがある。また、サービスの向上を図っていくために会議の活かし方の工夫が必要である。	・会議で出た意見を現場で活かせるようにする。 ・施設内の現状を報告することでイベントの際や緊急時名〇度地域の方や家族の方との協力体制が得られるようになる。	・意見交換の内容を議事録に記入する。 ・会議の議事録を職員間でも回覧し情報の共有を図る。 ・施設の現状を報告しイベントの際など可能な範囲で地域の方や家族の方の協力が得られるようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。